

(池田 昭雄 先生選)

# 第五十九回少年少女俳句作品集

主催 福岡ホストライオンズクラブ  
西 日 本 新 聞 社  
後援 福岡県教育委員会  
福岡市教育委員会  
俳誌「冬野」

小学校の部

市長賞

春の歌さくらさくらと歌おうよ

福岡海星女子  
学院附属

五年

池尻奏多

金賞

夏休み宿題終われば自由時間

舞

鶴

六年

中野将吾

銀賞

なつやすみママにはずっとない休み

吉

塚

六年

井上那由多

銅賞

なつやすみひやしそうめんトマトあり

住

吉

四年

小畑ふうが

入選佳作より特にすぐれた句

ふうりんがそよ風受けてささやいた	名	島	五年	荒津	佑太朗
おざしきで風鈴の音が風をよぶ	名	島	六年	田島	広基
クリスマスたのしみだなあプレゼント	舞	鶴	三年	浦	優花
旅人よ花火が高くあがってる	舞	鶴	四年	松村	幸来
ひまわりがにつこりわらうなつがきた	福岡海星女子 学院附属		一年	なかむら	きずく
古本にだれか忘れたクローバー	福岡海星女子 学院附属		三年	小田	陽
春風がからだをすつとぬけていく	福岡海星女子 学院附属		四年	木村	百花
清々しうぐいすの声青空に	福岡海星女子 学院附属		五年	蛭原	彩花
見上げれば空一面のうろこ雲	吉	塚	六年	梶川	健
夏休み自然観察あり調べ	住	吉	四年	上迫	大志

夏休み川辺の方でバーベキュウ	住	吉	四年	岩上	ゆら
ふらふらと右へ左へすいかわり	宮	松	六年	川谷	美陽
見ていたいきれいな花火いつまでも	宮	松	六年	小嶋	琴乃
花びらがひらひらとまいおちる	堤	丘	六年	三宅	佑妃乃
桜見て一年生の入学式	堤	丘	五年	島本	咲
ファイナレをむかえ花火の星がまう	若	宮	五年	竹田	朱凜
真っ青な空に広がる入道雲	金	山	六年	角	美里
夏休みあついけれどもポケモンGO	金	山	四年	小樋井	敦史
夏祭りベンチにすわって花火みる	那珂南		五年	熊谷	漣
夏の夜耳をすませば虫の声	那珂南		五年	吉富	あつ史

## 入選佳作

扇風機ぼくは一人ですずんでる	名 島	六年	井上 蓮志朗
夏休み家族みんなで魚つり	舞 鶴	三年	福光 紀美香
あついひるパパと水かけたのしいな	<small>福岡海星女子 学院附属</small>	二年	長門石 暁太
風りんがなればなるほどすずしいな	吉 塚	六年	正木 樹里
鹿児島で海とプールだ最高だ	住 吉	四年	かわなべてんせい
あつくなり打ち水をしてすずもうよ	筥 松	六年	相原 大祐
むらさきのあじさいが咲く雨の中	堤 丘	六年	林 七海
コオロギがどこかでりりりだいがつしょう	若 宮	五年	寺崎 大冴
見上げれば空いっぱいの入道雲	金 山	六年	仲村 萌弥
蛍たちいのちの光夜空まう	那珂南	五年	中川 心結

## 選外佳作

あじさいが花をさかせる雨の中	名 島	二年	に田の天しよう
青い海魚のように泳ぎたい	名 島	四年	三角 さら
夏の夜サイダー片手に花火見る	名 島	六年	高野 月花
ヒマワリがぼくの身長ぬいてゆく	名 島	六年	落合 健太
夏の夜星空きれいアンタレス	舞 鶴	四年	鶴岡 結衣
星を見て七夕まつりたのしもう	舞 鶴	三年	池田 もも
まりあさまごがつのそらにかがやくよ	<small>福岡海星女子 学院附属</small>	一年	つなみ みう
校庭に広がる空や夏休み	<small>福岡海星女子 学院附属</small>	五年	森 藤 綾
手長猿樹間を渡る夏の空	<small>福岡海星女子 学院附属</small>	五年	小西 美咲
夏休み今年はどこにいこうかな	筥 松	六年	福田 あげは

中学校の部

中学校の部

中学校の部

市長賞

炎天下大きく響くホイッスル  
高 宮 三年 下道 翔馬

金賞

参考書積み上がったく夏休み  
平 尾 三年 春日野 優光

銀賞

暑き日は日陰を探す通学路  
東住 吉 三年 長尾 美里

銅賞

冷素麺をちゆるちゆるちゆるんとすするかな  
住 吉 一年 陳 浩 琰

入選佳作より特にすぐれた句

汗流しみんなでつかんだ市大会	高宮三年	酒井美咲
花火見る大きな音に目をとじる	平尾三年	中村拓未
節分の鬼は今年もお父さん	平尾三年	岡夢乃
夢多しふくらんでゆく紙風船	粕屋三年	金子真奈
夕立の過ぎた青空虹架かる	席田三年	尾林克幸
水鉄砲笑顔輝く子供かな	席田三年	中村悠夏
ハンモック自然の中で読書する	古賀東三年	伊島光
勉強に追われて焦る夏休み	東住吉三年	渡部燈呂
あじさいがひと雨ごとに色深め	宇美南三年	小野優里香
梅雨時のいろとりどりの傘の花	宇美南三年	坂井優美

鶉色に咲き乱れるやサトザクラ	住吉二年	西田侑馬
梅雨空は私の心うつしだす	住吉三年	新井紅緒
母の日の感謝の気持ちこの花に	沖学園二年	入江桃子
入道雲空のキャンバスいっぱい	和白丘三年	竹下万智
炎天下大志をいただき僕も燃え	高取三年	坂田翔太
道の上落ち葉がつくったカーペット	大野三年	永井岳人
初詣行列つくる受験生	春吉三年	中川仁之介
籐いすに戻らぬ者を待つくほみ	舞鶴三年	白川晴恵
部屋の窓ヤモリ現れ夏来たる	福岡女学院二年	原田麻央
暗闇を光に染めし蛍かな	春日北三年	櫛山涼雅

入選佳作

顔出して美しきかな福寿草	席田三年	上田桃子
新緑の自然の香りサワサワと	古賀東三年	久保優音
受験生眠たき朝の蟬時雨	東住吉三年	森松聖博
新学期決意を胸に向かう道	宇美南三年	山本明日香
海水浴魚のように泳ぎたい	住吉一年	立花達成
光る汗すうつと口に夏の味	和白丘三年	後藤 駆
あせる君せかせているよアブラゼミ	高取三年	高瀬俊太
汗つたい勝つても負けても美しき	大野三年	大賀日和
朝起きてため息もらす梅雨の朝	春吉三年	小野田伊吹
初夢に希望を抱いて眠る夜	舞鶴三年	肥後杏奈

選外佳作

夕立に降られて帰路を急がされる	高宮三年	木寺可奈
風鈴の心地よい音に耳すます	平尾三年	脇坂 琴
しゃぼん玉浮かんで見える別世界	粕屋三年	村岡泰地
大音響汗かきながら踊りけり	席田三年	竹田美爽菜
かざぐるま回れ回れと息を吹く	席田三年	福井そら
桜散り気づけばすでに緑の葉	沖学園三年	多田文馨
春の朝二人で歩く並木道	和白丘三年	石橋藍圭
みな走る飛び散る汗や体育館	高取三年	花村瑞月
明けぬ夜をひとり寂しく朧月	大野三年	坂本光里
甲子園ベンチの裏の涙かな	春吉三年	大島隆乃介

## 応募上の注意

1. 応募されるときは、うすい鉛筆はさけ、文字は大きく、はっきり書いて下さい。
2. 作品全部が仮名ばかりであったり、または、殆ど仮名で書いたものがありましたら、学校で習った漢字は十分に生かして下さい。
3. 投句されるときは、学校名、学年および自宅住所は必ず記入して下さい。特に学校単位で投句されるとき、うっかり学校名、学年などが記入もれになるケースがあるようですので、注意して下さい。
4. 応募用紙は官製ハガキを原則としていますが、官製ハガキでないときは、ハガキと同型に裁断し、紙質も同程度のものを使用して下さい。
5. 薄い用紙などは、審査および整理上も困りますので、是非このルールを守って下さい。
6. 俳句上の注意
  - ① 応募俳句は五七五のリズムがあり、季節の言葉すなわち季語をよみこんだものであることはすでにご承知のとおりであります。
  - ② 俳句は必ず十七文字（十七音）にまとめなければなりません。
  - ③ 単に風景を詠ずるというのではなく、その主眼とすることは、春夏秋冬の移り変りによって起ってくる、自然界・人事界の現象を諷詠する文学です。決りを無視したものは立派な「詩」であっても「俳句」ではありません。その決まりには、二つの約束ごとがあります。一つは、五・七・五の十七音という形式であり、他の一つは、季題（季語）という条件です。

この二つの約束を守り十七音の中に必ず季題を入れてまとめることです。ことわざや川柳とちがいます。高浜虚子は俳句を作るとは画家が絵をかくようなものと言ったことがあります。その情景をえがくもので主観でなく客観のものであります。悲しい・うれしいの感情は特に言葉に出さなくてもその心があれば自然にあらわれるもので、それが大事なことであります。

### ④ 選考基準

- ① 十七音の中に季題（季語）一つが望ましい。三つ四つ入っている句が多い。一句一季語でない場合は除外することがあります。
- ② 大人の手の入った句も除外することがあります。

### むすび

第五十九回少年少女俳句募集につきましては、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、排誌「冬野」および小・中学校当局、西日本新聞社のご協力と選者池田昭雄先生のご好意に対し厚くお礼申し上げます。

福岡ホストライオンズクラブ

会 長 副 島 真 澄

教育委員長 松 尾 真 典

平成二十九年十一月十一日

市長賞 句評 (小学校の部)

春の歌さくらさくらと歌おうよ

福岡海星女子学院附属小学校 五年 池尻 奏多

つらい冬がおわり、気持ちよいどこか違った春がきます。春を楽しむことは「枕の草子」以来の伝統です。庭のさくらも咲き、満開となり、散ります。作者はそのような情景を目の前にし、思わず自分をつきうごかすやうな春の到来にさくら、さくらと歌い出しのでしょう。  
さくらさくらの歌謡は江戸時代の末頃から歌われている歌だそうです。歌詞がすこしづつかわてきているようですが一節をかいておきます。

さくら さくら やよいのそらは みわたすかぎり かすみか くもか においぞ いずる いざや  
いざや みにゆかん

金賞 夏休み宿題終れば自由時間

舞鶴小学校 六年 中野 将吾

待ちに待った夏休みです。宿題もいっぱいできています。一日で終わるとはおもえませんので、何日もかかって終わったのでしよう。やったという安堵感があふれてきます。

作者の宿題の取り組み方、計画、なしとげる意志の強さ、実行力がすばらしいと思います。後は楽しい自由時間です。本当にすばらしい夏休みをすごしたことでしよう。

銀賞 夏休みママにはずっとない休み

吉塚小学校 六年 井上 那由多

夏休みが来た。学校の規則からも解放され、自由で嬉しい。休みの間に山にも海にも行きたい。いろいろ、父母へのおねだりもあるだろう。がしかし、ふと思った。毎日学校に時間におくれないよう、食事や身のまわりの世話、いろいろ家事をこなしながら家族みんなのために働いている母のこと。母には子供の私のある夏休みのようなものはない。かえって休みになり家にいる時間も長くなり世話をやかすばかり、ママには休みはないのだ。ママありがとう。

銅賞 なつやすみひやしそうめんトマトあり

住吉小学校 四年 小畑 ふうが

暑い日がつづく。お昼はひやしそうめんがよいされていた。  
つめたくて、かんだんであるが食もすすむ。見れば食卓に新鮮なトマトも乗っている。思わず箸がのびトマトをつまむ。食卓をかこむ家族の姿も想像される。トマトの色が見えてくるところがこの句のよいところである。

## 市長賞 句評 (中学校の部)

炎天下大きく響くホイッスル

高宮中学校 三年 下道 翔馬

酷暑の日中、地上は炎天にさらされる。その下で競いあっている、ラグビーとかサッカーの試合が浮かんできてくる。レフリーのホイッスルで試合の開始、中断、進行の指示がなされる。

私はラグビーの次のような場面が目には浮かんできた。スクラムを組んでゴールの下になだれ込む。素早くレフリーがトライを見定めホイッスルが鳴る。歓声があがる。ホイッスルも大きく響く。炎天をものともせずには競技は進行する。

ホイッスルの鳴る場面はなにもラグビーだけでなくサッカーでもあるであろうが、どの場面をとっても炎天下、気力を尽くして戦っている選手の姿が現れる。そこがこの俳句の素晴らしいところだと思います。迫力があります。

## 金賞 参考書積み上がって夏休み

平尾中学校 三年 春日野 優光

夏休み、沢山の宿題が出る。早速取りかかる。分からにところは参考書を出して調べる。次に進む。国語、数学、理科、社会等々。机の端には勉強した証のように参考書が積み重なっている。こうやって夏休みも過ぎて行く。

夏休み後の作者の成長ぶりも想像されて、頼もしく思いました。

## 銀賞 暑き日は日陰を探す通学路

東住吉中学校 三年 長尾 美里

梅雨があげればいっぺんに炎暑がやってくる。家の縁側に日覆いがされたれ日傘をさす人が多くなる。作者はいつもの通学路であるが日陰があれば日陰を歩いていく。下校時であろうか。無意識にした行動のようであるが意識的に日陰を探し歩いていったのだ。

暑き日、暑きが季節。季節の言葉です。

## 銅賞 冷素麺をちゆるちゆるちゆるんとすするかな

住吉中学校 一年 陳 浩琰

夏という季節の素麺であることが分かるように冷や素麺として採用しました。冷やした素麺に薬味などをそえておいしくいただきました。一気に、ちゆるちゆるちゆるんと啜りこんだのです。

食べている顔が、口元が想像されてうれしい句となりました。「ちゆるちゆるちゆるちゆるん」の言葉の働きます。

## 講評

ライオンズクラブ主催の少女俳句募集句、本年度も拝見させていただきました。

小学校十校、一千五百二十一名。中学校、十六校、一千百六十三名等々多数の応募があつておりました。有り難うございました。

一句、一句丁寧に読みました。皆さんの小学校、中学校の変化に満ちた生活の日常がよく詠まれています。これからの日本はこういう皆さんによって背負われ行くのかと力強い思いをいたしました。

俳句は五七五の詩型、十七音であること。季題（季節のことば）があること。この二つを約束としております。このこと以外は全く自由な文芸です。

四季折りおりの自然を詠む、それに付随する人事をよむのが俳句ということになります。具体的には皆さんが作っているように、目の前の草や木や虫を詠む。家の父母兄弟、学校の先生、友達、学校の行事等々を詠むということになります。

自然は人間が親しみをもって接すれば、梅の花や月や春の風や、しぐれのように人間に親しいものになります。そこに美しい消息を見いだすことができます。

外国でもハイクが作られる時代になっております。これからは国際化の時代、日本人が日本を語るとき、俳句は思いがけない働きを持つておるかもしれません。

なお、俳句を作ることば皆さん方の人間形成に役立つところが多いと思しますのでこれから時々俳句を作つて見て下さい。

俳誌「冬野」名誉主宰、ホトトギス同人 池田 昭雄